

(3) 麦 類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 黒節病 <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>syringae</i> (種子消毒)	1. 無病圃場の種子を使用する。 2. 採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 3. 遅播きでは発病が少なくなる。 (薬剤使用の特記事項) 1. 湿粉衣は種子重量の約3%の水を添加し適度に湿らせた状態で薬剤を粉衣する。 2. 浸漬処理後は種子を速やかに乾燥する。	播 種 前 (湿粉衣)	M1 -	Z ボ ル ド ー シ ー ド ラ ッ ク 水 和 剤
		播 種 前 (浸漬処理)	-	シ ー ド ラ ッ ク 水 和 剤
2 裸黒穂病 <i>Ustilago nuda</i> (種子消毒)	1. 無病圃場の種子を使用する。 2. 採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 3. 冷水温湯浸法：種子を5～6時間冷水に浸した後、50℃の温湯で1～2分間温め、次いで、はだか麦、皮麦(大麦)は53℃、小麦は54℃の温湯に5分間浸漬し冷水で冷やす。 4. 風呂湯浸法：はだか麦と皮麦(大麦)は42℃、小麦は46℃に調節した風呂湯に8～10時間浸漬する。釜下の火は水をうって消し、フタを少しあけておく。	播 種 前 (種子粉衣)	3 1・M3 1・M3	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 (混)ベンレートT水和剤20 (混)ベンレートTコート
3 斑葉病 <i>Pyrenophora graminea</i> (種子消毒)	1. 無病圃場の種子を使用する。 2. 採種、収穫までに発病株を早めに抜き取る。 (薬剤使用の特記事項) 1. キノンドー水和剤40は小麦に登録がある。 2. 湿粉衣は種子重量の約3%の水を添加し適度に湿らせた状態で薬剤を粉衣する。 3. 浸漬処理後は種子を速やかに乾燥する。	播 種 前 (種子粉衣)	3 M1 1・M3 1・M3 1・M3	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 キ ノ ン ド ー 水 和 剤 4 0 (混)ベンレートT水和剤20 (混)ベンレートTコート (混)ホーマイ水和剤
		播 種 前 (湿粉衣)	-	シ ー ド ラ ッ ク 水 和 剤
		播 種 前 (塗沫処理)	M3 -	キ ヒ ゲ ン R - 2 フ ロ ア ブ ル シ ー ド ラ ッ ク 水 和 剤
		播 種 前 (浸漬処理)	-	シ ー ド ラ ッ ク 水 和 剤
4 赤かび病 <i>Gibberella zeae</i> <i>Fusarium avenaceum</i> <i>F. culmorum</i> <i>F. asiaticum</i> (小麦) <i>F. crookwellense</i> (小麦) <i>Monographella nivalis</i> (大麦) <i>Microdochium nivalis</i> (小麦) <i>Microdochium majus</i> (小麦)	1. 無病圃場の種子を使用する。 2. 窒素肥料の過用を避ける。 3. 排水を良好にする。 (薬剤使用の特記事項) 1. ベンレート水和剤は、小麦の赤かび病に登録がある。 2. 石灰硫黄合剤は商品によって、希釈倍数が異なるので(50～60倍の商品と100倍がある)、ラベルで確認すること。 3. 病害虫防除所の試験結果から、チルト乳剤25は1,000～1,500倍、ストロビーフロアブルは2,000～2,500倍で使用する。	開花始めの頃と その7～10日後 の 2 回	1 1 1 1 3 3 3 3 3 7 11 - 1・-	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤 ト ッ プ ジ ン M ゴ ル ト ッ プ ジ ン M 粉 剤 D L ベ ン レ ー ト 水 和 剤 ト リ フ ミ ン 水 和 剤 シ ル バ キ ュ ア フ ロ ア ブ ル チ ル ト 乳 剤 2 5 ワ ー ク ア ッ プ 粉 剤 D L ワ ー ク ア ッ プ フ ロ ア ブ ル ミ ラ ビ ス フ ロ ア ブ ル ス ト ロ ビ ー フ ロ ア ブ ル 石 灰 硫 黄 合 剤 (混)スミトップM粉剤
		発 病 直 後	3 3 3 3 - M2 M2 1・-	ト リ フ ミ ン 水 和 剤 シ ル バ キ ュ ア フ ロ ア ブ ル ワ ー ク ア ッ プ 粉 剤 D L ワ ー ク ア ッ プ フ ロ ア ブ ル 石 灰 硫 黄 合 剤 イ オ ウ フ ロ ア ブ ル サ ル フ ェ ー ズ ル (混)スミトップM粉剤

農薬の使用法や注意事項はラベルで確認する

麦類

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
6 さび病 (黄さび病) <i>Puccinia striiformis</i> var. <i>striiformis</i> (赤さび病) <i>P. recondita</i> (小麦) (黒さび病) <i>P. graminis</i> subsp. <i>graminis</i> (小さび病) <i>P. horde</i> (大麦)	1. 被害茎葉は収穫後に圃場の近くに残さず、堆肥にするか、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. シルバキュアフロアブル、カナメフロアブルは小麦の赤さび病に登録がある。 2. ワークアップ粉剤DL、ワークアップフロアブルは麦類の赤さび病に登録がある。	発 病 直 後	3 3 3 7 -	シルバキュアフロアブル ワークアップフロアブル ワークアップ粉剤DL カナメフロアブル 石灰硫黄合剤
7 縞萎縮病 BaYMV (大麦) WYMV (小麦)	1. 大麦、はだか麦栽培地で、本病の多発地では、播種をできるだけ送らす。 2. 排水を良好にする。 3. 大麦縞萎縮病発生地では小麦を栽培する。			
8 株腐病 <i>Ceratobasidium gramineum</i> <i>Ceratobasidium cereale</i>	1. 播種前に石灰質肥料を十分に施す(消石灰を10a当たり150kgなど)。 2. 多肥、密植を避ける。 3. プラウ耕を行い、地表面にある被害残さや菌核を土中に埋め込む。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アルカリ性薬剤との混用は避ける。 2. アミスター20フロアブルは、小麦に登録がある。 3. アミスター20フロアブル塗沫処理で、若干発芽率が低下することがある。 4. ベンレートTコートは、大麦に登録がある。	播 種 前 (塗沫処理)	11	アミスター20フロアブル
		播 種 前 (種子粉衣)	1・M3	(混)ベンレートTコート
9 アブラムシ類	1. 乳熟期ころから、テントウムシ、ヒラタアブ、クサカゲロウ類などの天敵が盛んに捕食するので、捕食によりアブラムシ類が減少しつつある場合は殺虫剤の散布を避けてもよい。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. エルサン乳剤・粉剤2、トレボン乳剤は小麦にしか登録がないので注意する。	発 生 初 期	1B 1B 1B 3A 3A 1B・-	スミチオン粉剤2DL エルサン乳剤 エルサン粉剤2 アグロスリン乳剤 トレボン乳剤 (混)スミトップM粉剤